

■坂出駅前エリア

エリアの 特徴

- 乗降客数が JR 四国内第 4 位を誇り、バスなどの交通インフラの結節点となっている等、多くの人の利用がある。
- 高校生の約35%が鉄道により通学する等、学生の利用も多く、南側の文教地区と駅北側をつなぐ拠点となりうる場所である。
- 現状の駅前広場や市民広場は人が憩えるような空間となっておらず、閑散とした雰囲気となっている。
- 市民からはにぎやかな店舗や居心地の良い場所を求める声が多い。
- 駅北側の駅前広場整備が未完了となっている。

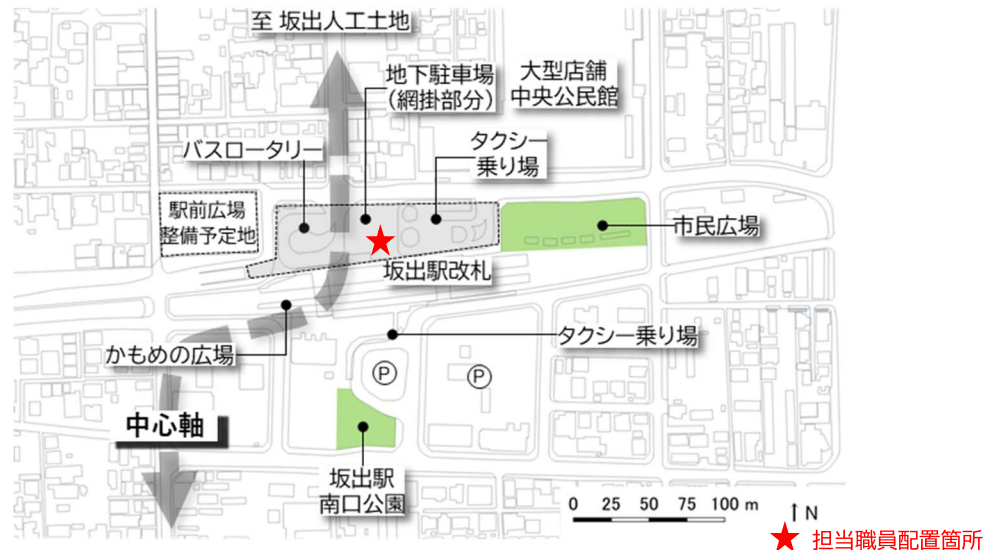


駅舎



バスロータリー

現況図



Station Gate

方向性

子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって
「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、中心市街地再生を牽引する場



- 「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の創造
- 交通結節点機能をいかし、みんなが集まれる中心市街地の拠点機能
- 高校生が放課後を過ごすことができる場の創出
- 市外から電車でアクセスする人にとっての玄関・ガイダンス機能
- 日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間の創出
- 駅前にふさわしく必要な都市機能の創出

■坂出人工土地エリア

エリアの 特徴

- 1968～86 年にかけて建設され、老朽化が進んでいるが、DOCOMOMO JAPAN(日本におけるモダン・ムーブメントの建築)に選定される等、建築界からの評価も高く、保存を求める声も多い。
- 坂出駅から徒歩圏内にあり、利便性は高い。
- 併設された市民ホールや道路(坂出停車場線)沿いに街路空間に対して開けた2つの広場や店舗を備える。
- 1階は建物中央に通路が設けられている空間構成となっており、老朽化とともに暗く近寄りがたい印象を与えている。
- 令和 4 年 2 月に市民ホールの大規模改修が完了し、活用が期待されている。



道路沿いに並ぶ店舗



交差点に面する広場空間

現況図



Culture Gate

方向性

市民ホールを核とした文化的活動拠点とし、人と文化の交流と創造の場



- 市民ホールを核とし、文化活動を身近に感じられる場の創出
- 街路沿いの店舗や交差点の広場を活用した滞留空間の創出
- 建築的価値をいかし、市民が誇れる場所としての愛着と誇りの醸成
- 利便性と建築空間をいかし、市外からの来訪者も見据えた展開

■坂出緩衝緑地エリア

エリアの特徴

- 北側の工業地帯と南側の住宅地を隔て、住民の健康と生活環境の保全を図るため整備され、西大浜緑地、東大浜緑地あわせて9ha、東西に2kmの長大な緑地空間であり、整備から40年を超え、木々が成長し、緑豊かな空間となっている。一方で暗い印象も与えており、市民が気軽に立ち寄ることが難しいと言われている。
- 令和6年度には坂出北ICのフルインター化により、隣接するさぬき浜街道のさらなる交通量の増加が予想され、車によるアクセス利便性は高いことから交流人口の増加が予想される。
- 日常的に多くの人々が訪れる大型店舗に近接している。

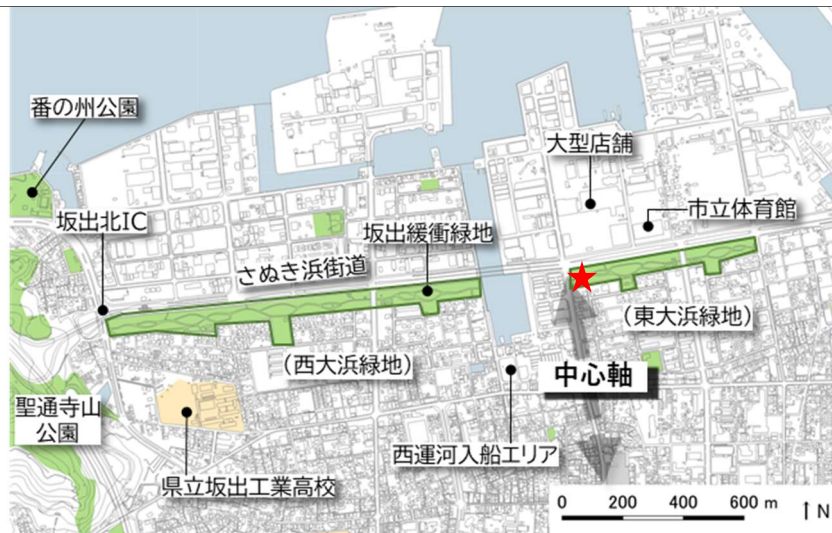


緑豊かな空間



さぬき浜街道に隣接

現況図



★ 担当職員配置箇所

Community Gate

豊かな自然環境と長大な空間をいかながら、多様な世代が集い、
交流する市民の活動拠点を創出する場

方向性



- 住宅地に近い中心市街地に位置する豊かな緑をいかした憩いの場の創出
- 長大な空間をいかした連続性や多様な魅力を持つ場の創出
- 車によるアクセス利便性の高さをいかした中心市街地への玄関機能
- 交流人口の増加をいかした坂出の魅力発信
- 多様な世代が日常的に集い、交流する市民の活動拠点としての活用による愛着と誇りの醸成

■西運河入船エリア

エリアの 特徴

- 港町坂出のいにしえの中心地として重要な場所である。
- 渡し船が発着していた等、島しょ部との歴史的なつながりが強い。
- 中心市街地に1番近い水辺空間であり、市民が水辺とふれあうことのできる数少ない場所となっている。
- 隣接する工場の閉鎖が発表されている。



西運河入船エリアの様子



水辺空間の様子

現況図



★ 担当職員配置箇所

Port Gate

水辺空間の活用により、魅力的な場を創出し、港町坂出を発信する場

方向性



- 貴重な水辺をいかした親水空間の創出
- 島しょ部とのつながりを含めた港町坂出の発信と誇りの醸成
- 海の玄関としてネットワークをいかした他の港との連携
- 坂出緩衝緑地エリアと連携した中心市街地への玄関機能

■商店街エリア

エリアの 特徴

- かつてはにぎわいをみせていたが、現在は空き店舗や空き地が増加し、商業機能が低下している。
- 一方で、商業者を中心に定期的にイベントが開催されており、市民主体のにぎわいづくりの取組が進められている。
- 坂出駅前や坂出人工土地、西運河入船エリア、市立病院をつなぐ位置に存在し、中心市街地内に回遊性を生み出す上で重要な位置にある。



イベントの様子



商店街の様子

現況図



Challenge Gate

方向性

市民や民間主導のチャレンジにより小さな居場所やにぎわいを創出し、
各エリアのつながりを生み出す場



- 居心地の良い店舗等、民間主導により居場所を創出
- 空き店舗や空き地を活用したチャレンジの誘発
- 滞留空間やにぎわいの連続を生み出すことで各エリアをつなぎ、回遊性を創出
- イベント等をきっかけとするにぎわいづくりと機運醸成
- 利便性をいかした居住空間の創出

旧市立病院跡地エリア

エリアの特徴

- 敷地面積約 8000 m²の中心市街地内では最大の公共用地である。
- 坂出駅や南側に集積する高校などの教育施設から徒歩圏内にあり、利便性が高く、学生の利用も期待される。
- 駅南側は公園等の市民の憩いの場が少なく、ゆとりの創出が望まれる。
- 市民が好きな場所・誇りに思う場所として上位に挙がる香風園や市民ふれあい会館に近接しており、連携した取組が望まれる。
- 周辺は住宅地となっているため、整備の際は一定の配慮が必要。
- 香風園および市民ふれあい会館において、イベントが行われる場合には駐車場が不足している。

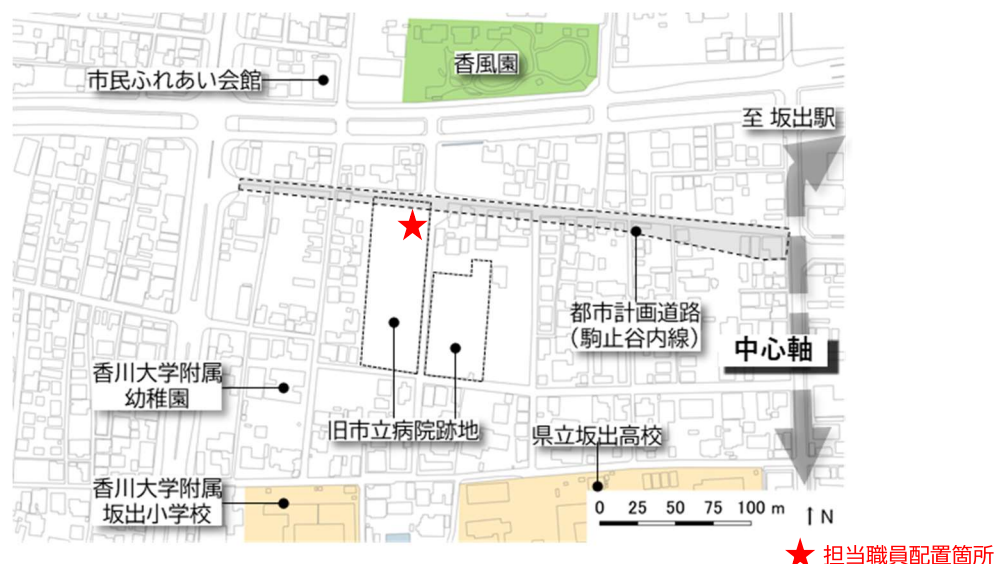


跡地の様子



近接する香風園

現況図



Future Gate

方向性

市民が気軽に過ごせる場を創出し、ゆとりを生み出し、市民が成長できる場



- 坂出駅南側の憩いの空間の創出
- 香風園および市民ふれあい会館と連携した取組の展開
- 文教地区に近接しており、市民が成長でき、育てる場の創出